

3. 有明海粘質状浮遊物原因究明・予測手法開発

山砥稔文・平江 想・高見生雄

有明海では、平成15年と16年の春季（4月～5月）に粘質状浮遊物が大量に出現し、小型底びき網や刺網などに漁業被害をもたらした。そこで、この粘質状浮遊物の発生原因を明らかにするための調査を実施した。

方法

粘質状浮遊物は、植物プランクトン由来のものが発生原因と推察され、その出現に絞り、粘質状浮遊物の発生との関係を把握するため下記のとおり調査を実施した。

図1に示した諫早湾内3定点（S6, B3, B4：九州農政局北部九州土地改良調査管理事務所所有の橋）において、平成28年2～6月および10～11月（概ね隔週1回）に定期観測を実施した。

観測時に1m層と底層（海底から1m層）から100m^lを採水し、顕微鏡観察により植物プランクトン組成を調べた。

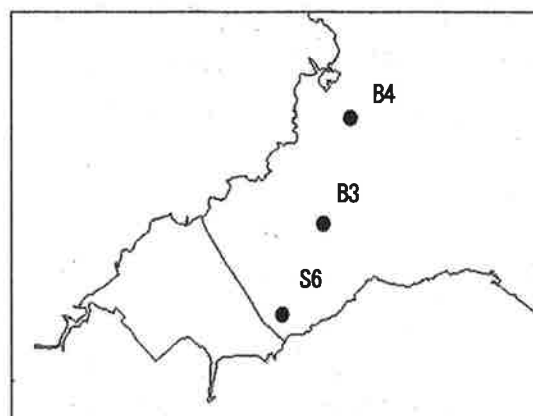


図1 浮遊物調査定点位置図

結果

諫早湾において、3月上旬に*Skeletonema* 属、6月上旬に微細藻類の増殖に伴い粘質状浮遊物の発生が確認されたが、漁具への顕著な付着は確認されなかった。

（担当：山砥）